

コロナ禍を経て親子コミュニケーションはどのように変わったか

第10回を迎えた今回の調査は、2020年春の一斉臨時休校期間中に入学し、高校生活を新型コロナウイルス感染症の影響下で過ごしてきた高校2年生とその保護者が対象となった。コロナ禍が親子の会話や進路選択にどんな影響を与えているか、急速に進んだICT活用をはじめ、授業や探究など教育の変化、入学者選抜改革はどう受け止められているのかなど、最新の調査結果から明らかにしていく。

Part 1 この2年での親子コミュニケーションの変化

コロナ禍で会話量が増え、話題も多様化。

親子のコミュニケーションはより緊密に

「コロナ禍で増えた「社会や政治」「将来や進路」「心や健康」の会話

図1は「新型コロナウイルス感染症の影響で、会話に変化があったか」をたずねたものだ。まず「全体的なコミュニケーション量」では、高校生、保護者共に「あまりかわらない」が68%台で最も多い。「増えた」と「減った」を比較すると、「増えた」が共に29%で、「減った」計を大きく上回っている。

増えた会話内容の上位は、高校生では「社会や政治に関する話」「将来や進路に関する話」、保護者では「心や健康

に関する話」「社会や政治に関する話」の順で、いずれも「増えた」計が3割前後を占めている。

今回、政府からの要請などで高校生活に直接の影響を受けた親子にとって、平時にはあまり意識することのなかった「社会や政治」の話題が、コロナ禍で期せずして身近なテーマとなったようだ。また、日本経済への影響を目的の当りにしたこと、将来や進路についての会話が増えた家庭も多いと思われる。休校措置や外出自粛、各種活動の制限による子どもの「心や健康」への保護者の心配も表れている。

進路選択の悩みや不安の親子での共有が進む

また、図表は割愛するが高校2年生秋時点でのコミュニケーション状況を前回調査(2019年)との比較で検証すると、「進路について話す頻度」に大きな変化はないが、「進路選択の悩みや不安の共有度」が高まっていた。高校生、保護者共に7割が悩みや不安を「知っている」「よく知っている」少し知っている「計」と回答、高校生では過去最高になった。なお、「よく知っている」の割合が高校生で+3ポイント(24%→27%)、保護者では+4ポイント(22%→26%)伸びていずれも過去最高となり、共有度の深まりを示している。コロナ禍で在宅時間が長くなった保護者と高校生の間では進路の悩みや不安なども共有され、会話量の変化だけで

調査概要 一般社団法人全国高等学校PTA連合会×株式会社リクルート 合同調査

- 一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルート合同調査
- 調査対象/全国の高校2年生とその保護者：全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校(2年生2クラス分の高校生と保護者)に発送し、計26校より協力を得た
- 調査期間/2021年9月14日(火)~2021年10月28日(木)回収終了
- 調査方法/①高校生/ホームルームにてアンケートを配布。紙調査票またはWeb画面から回答 ②保護者/高校生から保護者へアンケートを手渡し。紙調査票またはWeb画面から回答 ③学級担任が高校生分と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送
- 有効回答数/高校生1815名、保護者1529名 ※全問無回答を除く
- 調査実施/株式会社アンド・ディ

【回答者プロフィール】

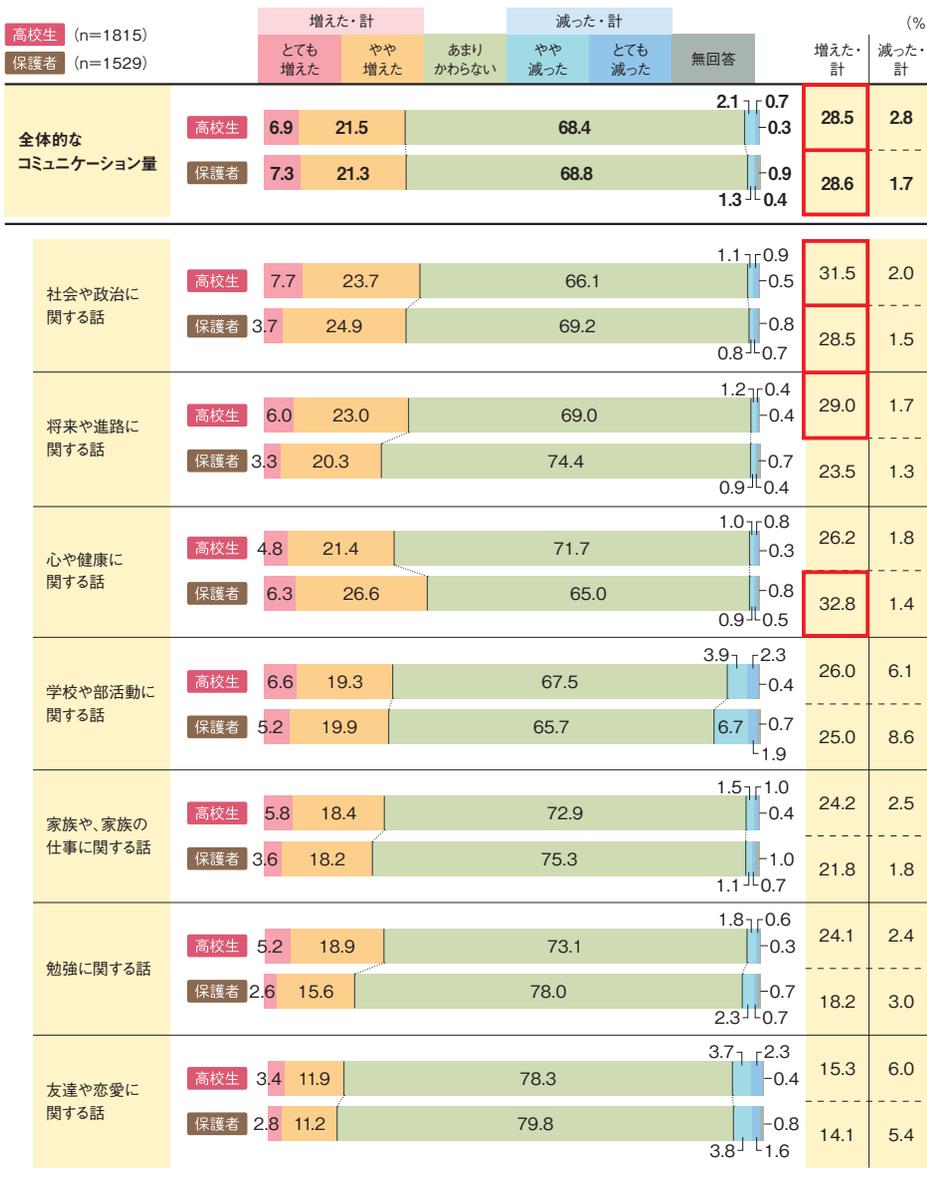
- 高校生**
- 性別/男子47.0% 女子49.3% その他2.0% (無回答1.7%)
 - 高校タイプ/普通科81.8% 専門学科18.1% 総合学科0.0% 不明0.1%
 - 地域分布/北海道7.7% 山形県12.5% 茨城県11.8% 東京都12.8% 新潟県12.8% 三重県9.9% 和歌山県13.4% 島根県10.4% 沖縄県8.6% (無回答0.1%)
 - 高校卒業後の希望進路/大学66.2% 短大3.0% 専門職大学0.9% 専門職短大0.2% 専門学校13.2% 海外の大学等0.3% 就職15.3% その他0.7% (無回答0.3%)

- 保護者**
- 続柄/父親13.7% 母親84.0% その他0.9% (無回答1.3%)
 - 子どもの性別/男子46.1% 女子52.6% その他0.1% (無回答1.2%)
 - 地域分布/北海道7.7% 山形県13.1% 茨城県13.7% 東京都11.1% 新潟県15.1% 三重県9.9% 和歌山県12.6% 島根県11.4% 沖縄県5.4% (無回答0%)
 - 子どもに対する高校卒業後の希望進路/大学53.8% 短大2.6% 専門職大学2.3% 専門職短大0.3% 専門学校6.8% 海外の大学等0.3% 就職9.0% その他0.7% 子どもが希望する進路なら何でもいい23.4% (無回答0.8%)

※詳細な報告書はリクルート進学総研Webサイトに掲載します

構成・文/平林夏生

図1 【高校生・保護者】コロナ禍の影響による会話の変化 (全体/各単一回答)



※「全体的なコミュニケーション量」以外は高校生「増えた・計」の降順ソート

なく、質の面でも深いテーマの会話が
されていることがうかがえる。
**子どもへの声かけは「好きなこと
をしなさい」が伸びて6割超に**
進路の話をするとき、保護者はどん
な言葉を使うのか(図2)。あてはまる
言葉を保護者にすべて選んでもらった

ところ、1位は「自分の好きなことを
しなさい、やりたいことをやりなさい」、
2位は「自分でよく考えなさい」が続
く。「自分の好きなことをしなさい、や
りたいことをやりなさい」が2019年
から15ポイント伸ばした一方で、「勉
強しなさい」「頑張れ、あきらめるな、や
ればできるよ」がいずれも▲6ポイント

減、「技術を身につけたほうがいい」「資
格取得を目指しなさい」も微減。「コロナ
禍で社会や価値観の変容が見通せな
いなか、進路を考えるにあたり大切に
したいことは子ども自身の好きなこ
と・やりたいことだと考える保護者が
増えている傾向が感じられる。
このような保護者の想いを高校生は

図2 【保護者】子どもと進路の話をするときに使う言葉 (全体/複数回答)



※「2021年全体」の降順ソート

保護者の言葉をどう感じるか 高校生

自分の好きなことをしなさい
・やりたいことをやりなさい

- 自分の将来は自分で責任を持たないといけない、といわれるたびに感じる [島根県/男子/大学]
- 自分で決めたことは最後までやり抜きたい [沖縄県/女子/大学]
- 自分の進みたい道に向かって努力していこうと感じる [三重県/女子/大学]
- 自分を認めてくれているのだと思う [島根県/男子/大学]
- 私の夢を応援してくれていて心強い [三重県/女子/大学]
- 自分は将来何をしたいのかがまだ定まっていないので逆に困る。アドバイスが欲しい [新潟県/男子/大学]
- 自由にやっていいと言われるとよく分からない [新潟県/女子/専門学校]

自分でよく考えなさい

- 自分のことは自分で決めなければならないという気持ちになって気が引き締まる [山形県/女子/大学]
- 任せてくれていると感じるが、もう少し具体的なアドバイスが欲しい [茨城県/女子/大学]
- 固定概念を押しつけたりされないからとても嬉しく思うし、それと同時に真剣にならないと思う [島根県/男子/大学]
- 何かプレッシャーのようなものを感じる [新潟県/男子/大学]
- 応援してくれてない感じがして悲しくなる [新潟県/女子/専門学校]

自分で決めなさい

- 自分の将来を自分で選択できるありがたさと不安を感じる [茨城県/女子/大学]
- 自分の人生は自分で決めるべきだと実感する [北海道/男子/就職]

※末尾カッコ内の表記は [都道府県/性別/希望進路]

どう感じているのだろうか。図表は割愛するが、高校生の「進路を考える上で保護者へやめてほしいこと」では、「『好きなことをしなさい』だけで終わらないでほしい」が2019年から微増(12ポイント)。フリーコメント1から

も自分で判断することを求める保護者の言葉に対して、「自分で決めたことは最後までやり抜きたい」など前向きな声が多い反面、「何をしたいのかがまだ定まっていないので逆に困る」という戸惑いもある。人生経験が浅く、迷いや

悩みの多い高校生に対しては、「好きなことと進路選択をどうつなげていくか」というアドバイスが重要になってくる。保護者の期待や信頼がうまく子どもに伝わり、適切な進路選択に結びつくよう高校と保護者との連携が求められる。

Part 2

保護者の進路選択への関わり方の変化

社会変化や行動制限に悩みつつ積極的に関わろうとする保護者を、高校生はポジティブに受け止め

「予測のつかない社会」が
アドバイスを困難要因の1位に

保護者に子どもの進路選択へのアドバイスの難しさの程度をたずねたところ、前回から引き続き約7割の保護者

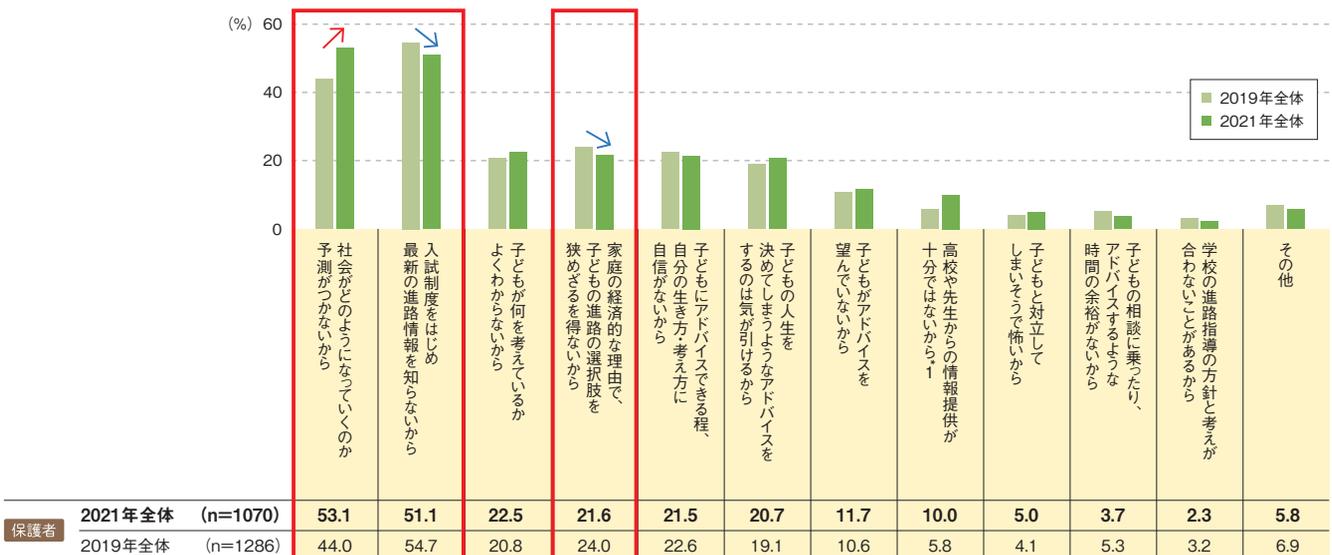
が「難しい」と感じているが、その要因は「社会がどのようになっているのかわからないから」53%が前回調査から19ポイント増加し、前回トップだった「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」51%(前回比▲4ポイ

ント)を逆転した(図3)。コロナ禍による社会変化の加速に加え、前回調査時には未実施だった「大学入学共通テスト」が行われ、入学者選抜改革への理解が進んだことなども影響しているのかもしれない。

「経済的事情」の困難理由は低下
各種支援制度の認知増も一因か

コロナ禍を受け家庭の経済面での進路選択影響が懸念されていたが、「家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選

図3 【保護者】進路選択についてアドバイスを難しいと感じる要因(アドバイスが「難しい」と感じる回答者/複数回答)



※「2021年全体」の降順ソート 1) 2019年選択肢は「教師からの情報提供が足りないなど、高校が頼りにならないから」

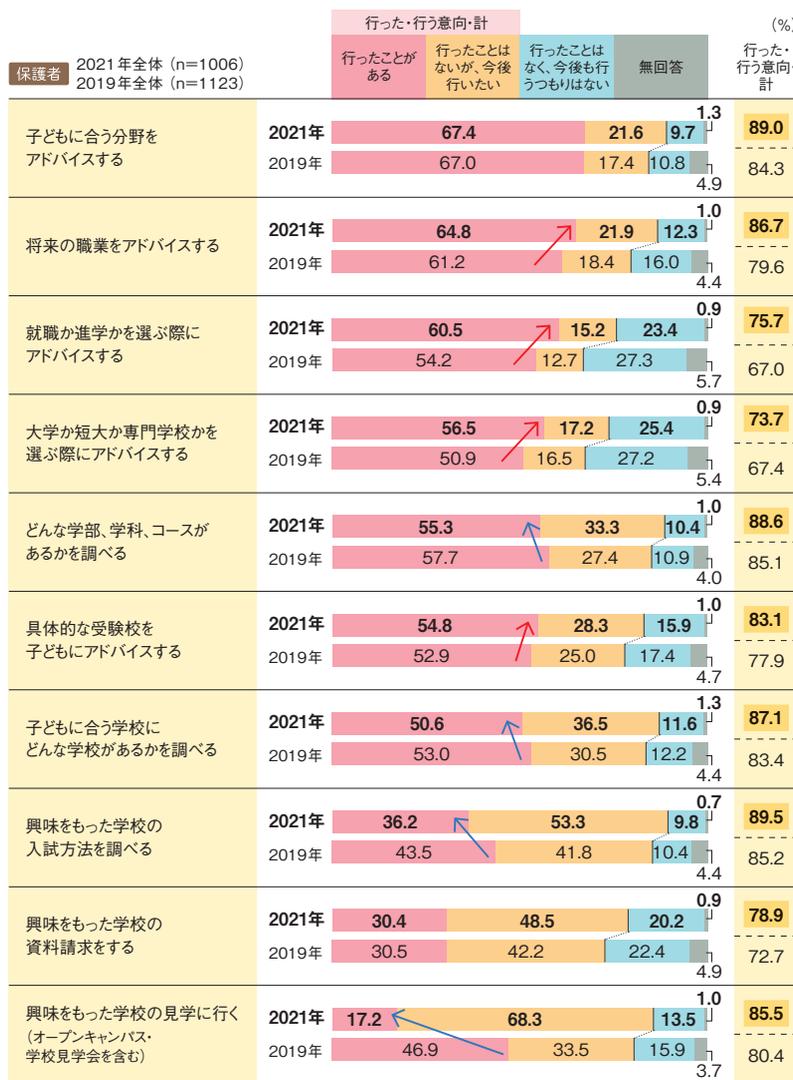
次に進学希望の保護者の、子どもの進路選択行動への関わり方について見ていく(図5)。「行ったことがある」の上位は「アドバイスを」という行動が占める。2019年と比較すると「アドバイスを」が増加した一方、「調べる」「見学す

「調べる」「見学」など具体的な行動の取り戻しが今後の課題に

ただし、経済状況の進路決定への影響別に見ると、「影響がない」と答えた層に比べて「影響がある」と答えた層の認知度は63%と▲4ポイント低くなっている。また希望進路別では、専門学校進学希望者の利用意向(59%)は大学(51%)、短大(55%)に比べて高いが、認知度は52%と、大学(65%)、短大(59%)に比べて低い水準にとどまっている。家庭の経済状況が進路選択に影響し支援が必要な層や、専門学校進学希望者に対しては、支援制度の認知が行き渡っていない可能性がうかがえる。

「調べる」「見学」など具体的な行動の取り戻しが今後の課題に
 剥肢を狭めざるを得ないから」は微減となった(24%→22%・図3)。
 この背景として各種支援制度の存在が考えられる。奨学金や高等教育就学支援制度などの経済支援について、進学希望の保護者の認知度は高まっており(図4)、特に2020年度から始まった「高等教育修学支援新制度」の認知は2019年の21%から63%と3倍に増加、認知者の57%が「利用したい」と回答した(利用意向の図表は割愛)。

図5 【保護者】進路選択行動への関わり方 (子どもを進学させたい希望者/各単一回答)



※2021年「行ったことがある」降順ソート ※2021年「行った・行方意向・計」が2019年より高い数値を■で表示

「調べる」「見学」など具体的な行動の取り戻しが今後の課題に
 「行ったことがある」と「今後行いたい」の合計値の変化の傾向を見るとすべて前回より増えている。保護者の関与意向は強まっており、2年生段階での「調べる」「見学する」などの具体的な行動が遅れていることから、3年生になっ

図4 【保護者】進学に関する経済支援の認知状況 (子どもを進学させたい希望者/各単一回答:「知っている」割合)



※利用意向のデータは割愛

図6 【高校生】進路選択に関する保護者の態度 (全体/単一回答)



者に対しても生徒に対しても重要になってくる。

進路選択への保護者の関わりは「ちょうどいい」が過去最高に

なお、保護者が進路選択に関わりた理由の1位は「子どもと一緒に考えたいから」で、過去最高の72%であった(図表は割愛)。前段同様、親子関係の緊密さを感じられるが、そのような状況を高校生側はどう受け止めているのだろうか。「進路選択に関する保護者

の態度」(前ページ図6)では、「干渉しすぎる・やや干渉する」と「やや無関心・無関心すぎる」がいずれも低下し、「ちょうどいい」と答えた高校生が7割を超えて過去最高となった。

コロナ禍で共に過ごす時間が増えるなど、これまでとは異なる状況のなかで親子のコミュニケーションが質・量ともに変化。進路についてもお互いの理解が進み、それが高校生にもポジティブに受け入れられている様子が見えてくる。

part 3 ICT活用への期待と実感

活用の実感はまだ道半ばだが、今後期待する効果のトップは高校生・保護者共に「学習の個別最適化」

オンラインでの「授業」「連絡」「自宅学習」が3大メリット

ここからは、コロナ禍をきっかけに学校での導入が一気に進んだICTについて見ていきたい。「授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTを活用しているか」たずねたところ(図7)、高校生では75%、保護者では56%が「活用している」と回答、同年2月に行った教員調査(97%※参考値)と比較すると差があり、高校におけるICT活用の意図や実績が高校生と保護者には

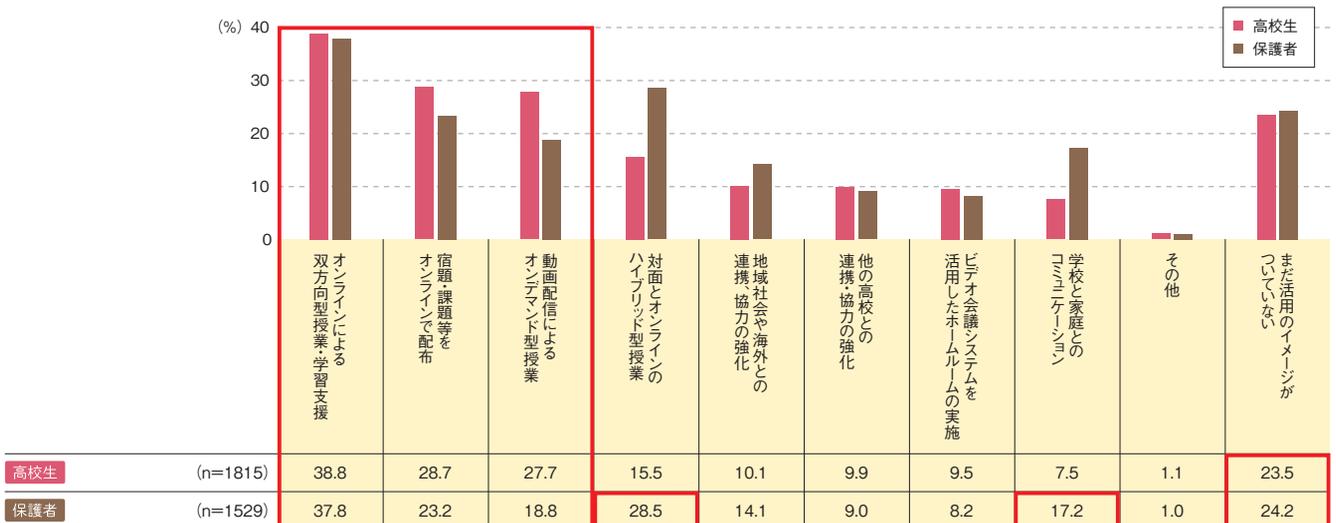
十分に伝わっていない可能性がある。ICT活用で良かった点を複数回答で選んでもらったところ(表1)、上位は高校生、保護者共に同じで、1位「オンラインで授業を受けることができる」が5割、2位「学校からの連絡がメールなどのオンラインになった」が4割前後、3位「オンラインで宿題などの自宅学習が進められた」が3割弱の支持を集めた。休校中でも学びやコミュニケーションを止めることなく過ごすことができた喜びが実感されているのではないだろうか。

図7 【高校生・保護者】 高校の授業、ホームルーム、探究などの教育活動でのICTの活用状況 (全体/単一回答)

	活用・計	活用・計					組織的に活用・計	活用・計
		組織的に活用・計		教員個人で活用している	使い始めている(活用はまだこれから)	無回答		
		学校全体で組織的に活用を推進している	学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している					
高校生	(n=1815)	33.6	26.2	15.1	23.4	1.8	59.7	74.8
保護者	(n=1529)	25.8	26.9	3.7	31.5	12.0	52.7	56.4
参考) 教員	(n=1156)	51.2	14.5	31.0	3.0	0.3	65.7	96.7

※「教員」は2021年2月実施「高校教育改革に関する調査2021」(参考値)

図8 【高校生・保護者】 今後、学校や自宅でのようにICTを活用していきたいか (全体/複数回答)



※「高校生全体」の降順ソート

「学校や教員の活用度の差」が
保護者、高校生共に課題の上位に

逆にICT活用で困った点や課題については(表2)、高校生ではデジタルネイティブ世代らしく「特にない」が最も多く24%だった。挙げた課題の1位は「学校や教員によってICTの活用度に差がある」23%、僅差で「紙の教材のほうが強がしやすい」「スマホが小さく、画面が小さくて文字が見えにくい」までが20%以上で続く。

保護者が挙げた課題のトップは「勉強しているのか、遊んでいるのかわからない」31%、以下「学校や教員によってICTの活用度に差がある」21%、「SNSなどの活用により様々な危険性がある」15%、「健康面で良くない影響がある」14%と続く。「特にない」は29%であった。

調査結果からは「スマホしかない」といったデバイスの問題は残るものの、ハード面より使用方法への課題感が多く挙がっている。また高校生、保護者共に上位の「学校や教員によってICTの活用度に差がある」は高校から改善を図ることが可能な課題であり、優先順位を上げて着手することが望まれる。

「授業」「宿題」「コミュニケーション」幅広いICT活用を期待

「今後、学校や自宅でのようにICT活用していきたいか」活用意向を見ると(図8)、高校生、保護者共に1位は

「オンラインによる双方向型授業・学習支援」であった。高校生は2位「宿題・課題等をオンラインで配布」、3位「動画配信によるオンデマンド型授業」。保護者は2位「対面とオンラインのハイブリッド型授業」、3位「宿題・課題等をオンラインで配布」。保護者は「学校と家庭とのコミュニケーション」も高い。どちらも「授業」「宿題」「コミュニケーション」などに幅広い期待が集まっている。その一方「まだ活用のイメージがっていない」が高校生、保護者共に24%と、ICT技術でできることをより身近に感じてもらったことが必要な層が4人に1人の割合で存在していることもわかった。

期待する効果のトップは高校生・保護者共に「学習の個別最適化」

次にICT活用によって期待できる効果や変化を挙げてもらったところ(次ページ図9)、保護者・高校生共に1位は「一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる」で、学習の個別最適化への期待が最も高かった(高校生45%、保護者34%)。

以下、高校生は2位の「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる」から5位の「多様なリソース(情報や人)にアクセスできることで、学びが深まる」までが2割台の僅差で続き、さまざまな期待がある一方、「特にない」が18%と、ICTを活用することによる変化のイメージがわからない高校生も一定層いる。

表1 【高校生・保護者】高校でのICT活用について良かったと思う点・上位8項目（「学校でICTを活用している」回答者／複数回答）

順位	高校生 (n=1358)	%
1位	オンラインで授業を受けることができた	50.0
2位	学校からの連絡がメールなどのオンラインになった	38.1
3位	オンラインで宿題などの自宅学習が進められた	28.1
4位	クラスや部活動の連絡などがオンラインになった	21.6
5位	休校中も先生や友達とコミュニケーションがとれた	13.7
6位	探究活動など、自身の興味ある学びを深めることができた	12.2
7位	Webサイト・アプリやオンラインオープンキャンパスなどで進路検討ができた	7.9
8位	オンラインを通して活動の幅が広がった	7.6
	特にない	10.3

順位	保護者 (n=863)	%
1位	オンラインで授業を受けることができた	52.3
2位	学校から保護者への連絡がメールなどオンラインになった	41.9
3位	オンラインで宿題などの自宅学習が進められた	26.7
4位	休校中も先生や友達とコミュニケーションがとれた	19.8
5位	子どものICTスキルが上がった(オンライン会議や動画編集など)	11.9
6位	Webサイト・アプリやオンラインオープンキャンパスなどで進路検討ができた	10.1
7位	探究活動など、子どもが興味ある学びを深められた	8.1
8位	オンラインを通して子どもの活動の幅が広がった	3.7
	特にない	10.4

表2 【高校生・保護者】高校でのICT活用について困った点・問題だと思った点・上位8項目（「学校でICTを活用している」回答者／複数回答）

順位	高校生 (n=1358)	%
1位	学校や教員によってICTの活用度に差がある	22.9
2位	紙の教材のほうが強がしやすい	22.2
3位	スマホが小さく、画面が小さくて文字が見えにくい	20.3
4位	つい学習以外の用途に利用してしまう	14.2
5位	パソコンやアプリなど、使い方が分かりにくい	13.2
6位	アクセス制限があり使えないサービスやWebサイトがある	9.3
7位	健康面で良くない影響がある	9.2
8位	自宅内で集中して学習できるスペースがない	8.9
	特にない	23.8

順位	保護者 (n=863)	%
1位	勉強しているのか、遊んでいるのかわからない	30.9
2位	学校や教員によってICTの活用度に差がある	20.9
3位	SNSなどの活用により様々な危険性がある	14.9
4位	健康面で良くない影響がある	13.9
5位	家庭の負担でICT端末を準備しなければならない	8.6
6位	自宅内で集中して学習できるスペースがない	6.5
7位	学校の端末を持ち帰ることができない	5.6
8位	通信量が増加し、通信料金が高くなったり低速化した	4.9
	学校から保護者への連絡がメールなどオンラインになった	4.9
	特にない	28.7

保護者は2位に「多様なリソースにアクセスできる」ことで、学びが深まる」32%が入り、高校生と比較して大きな期待が寄せられている。また統柄別に特徴が見られ、父親は母親に比べて期待値が高い項目が多く、なかでも「多様なリソースにアクセスできる」ことで、学びが深まる」への期待が43%と突出。母親は「授業外の家庭学習(課題)等も含めた学習時間の伸長」への期待の高さが特徴となっている。

高校生は大短進学率別に特徴が見られ、進学率の低い学校の生徒ほど

Part 4 教育改革の受け止め

高大連携、ICT、授業改善、総合的な探究の時間：学びを深める改革に高い期待

入学者選抜改革への不安の一方、高大の連携には7割が期待

まさに現在進行中の教育改革について、高校生と保護者はどのように受け止めているのだろうか。まずは「入学者選抜」と「大学の教育」改革について見ていこう(図10)。

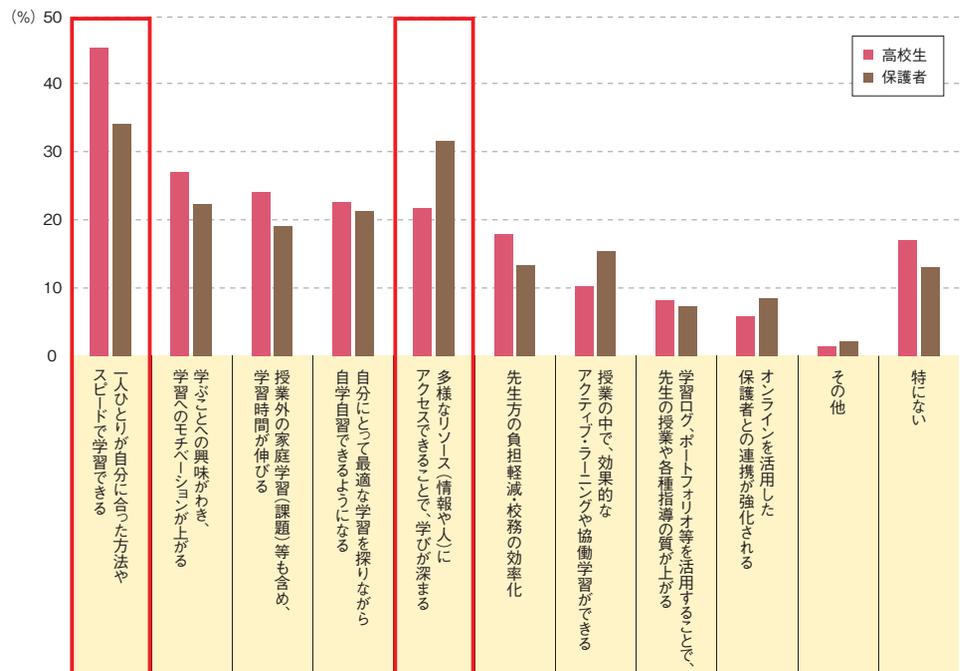
大学短大進学希望者の大学入学者選抜改革への「期待」と「不安」を比較すると、高校生、保護者共に、大学入学共通テスト、個別入試に関する項

「学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる」が高く、進学率40%未満の高校生は35%が期待している。一方、進学率が高い学校の生徒ほど「多様なリソースにアクセスできる」ことで学びが深まる」のスコアが高く、95%以上の進学校での期待は29%と非常に高い。この傾向は2月の教員調査でも同様で、進学校では生徒、教員共に、教室内での学習や日常生活圏では触れられない情報源に触れ、刺激を受けて学びを深めていくことができることへの期待が高いようだ。

目への「不安」が強い。「英語の『聞く』技能」「主体性」「思考力・判断力」など、これまでにない評価軸に対して不安を覚えていることがわかる。

その一方、「調査書への『学力の3要素』すべての評価の記載」は、高校生では「期待」が「不安」を+10ポイント上回る。「学力に加え、その人自身の人間性が評価される」(48ページのフリーコメント)など、入試学力だけでなく、より多面的・総合的に評価してもらえらることに對しては期待もうかがえる。

図9 【高校生・保護者】ICT活用によって期待できる効果や変化(全体/複数回答)



対象	属性	人数	一人ひとりが自分に合った方法やスピードで学習できる	学ぶことへの興味がわき、学習へのモチベーションが上がる	授業外の家庭学習(課題)等も含め、学習時間が伸びる	自分にとって最適な学習を探りながら自学自習できるようになる	多様なリソース(情報や人)にアクセスすることで、学びが深まる	先生方の負担軽減・校務の効率化	授業の中で、効果的なアクティブラーニングや協働学習ができる	学習ログ、ポートフォリオ等を活用することで、先生の授業や各種指導の質が上がる	保護者との連携が強化される	オンラインを活用した	その他	特になし
高校生	全体	(n=1815)	45.2	26.9	24.0	22.6	21.7	17.9	10.2	8.2	5.8	1.4	17.9	
	95%以上	(n=660)	45.5	19.5	23.6	23.3	28.8	23.5	14.8	10.5	6.1	2.0	13.6	
	70~95%未満	(n=222)	44.6	28.8	28.8	27.9	21.2	18.0	10.8	10.8	5.9	0.9	16.2	
	40~70%未満	(n=357)	46.2	27.5	26.1	24.1	21.0	14.3	9.0	6.4	4.2	0.8	18.5	
	40%未満	(n=574)	44.4	34.5	21.3	18.8	14.1	13.8	5.4	5.4	6.4	1.2	23.2	
保護者	全体	(n=1529)	34.0	22.3	19.0	21.3	31.5	13.3	15.3	7.3	8.4	2.1	13.0	
	父親	(n=210)	33.8	23.3	12.4	21.9	42.9	18.6	21.0	9.5	15.2	2.4	8.1	
	母親	(n=1285)	34.2	22.3	20.2	21.6	30.0	12.6	14.7	7.0	7.3	1.9	14.0	

※「高校生全体」の降順ソート ※それぞれ全体値と比較して +5ポイント以上高い ▲5ポイント以上低い

学び」への想いを共に育て、繋いでいく連携がますます重要となってくる。

高校生の3人に2人が期待するICTによる個別最適化学習

そして、(高校の教育)の改革に対しては、高校生・保護者共にすべての項目で「期待」が5割を超え、「不安」を大きく上回っている(図11)。

特に高校生の「期待」の1位「ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる」は「期待」が66%と高い割合であった。

保護者の1位は、高校生2位の「生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される」(こちらも「期待」が66%に上る)。

改革への期待の理由を見ると(次ページ「フリーコメント」)、高校生は「勉強を自分の進度に合わせてできる」「自分たちで考えることで学力が伸びる」など学力が伸ばせることを歓迎。保護者からは、子どもたちの興味や好奇心を刺激することで新たな能力を見出したり、意欲を高めてもらえる教育への期待が感じられる。また、「社会に出た時に自分の軸を持って物事を見られるように」という高校生の声に代表されるように、将来を見据えた中長期的な視点で、生きる力が身につくことが高校生、保護者共に挙げられている。一部ではあるが、本質的な改革の意義が理解された上での期待も寄せられていることがわかる。

図10 【高校生・保護者】〈入学者選抜〉〈大学の教育〉に関する教育改革への期待と不安 (高校生：大学・短大進学希望者、保護者：子どもを大学・短大に進学させたい希望者/各単一回答)

	期待・計		不安・計			期待・計	不安・計	期待・計-不安・計の差
	期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である	わからない			
英語はリーディング(100点)とリスニング(100点)の出題となり、これまでより「聞く」技能が重視される	19.5	21.1	18.5	33.2	6.7	40.6	51.6	-11.1
各大学の個別入試では、筆記試験に加えて小論文や面接、ポートフォリオなどで主体性が評価される	16.8	21.0	22.3	27.3	11.6	37.8	49.6	-11.7
「大学入試センター試験」が「大学入学共通テスト」に変わり、より「思考力・判断力」が必要なテストになる	18.6	21.4	21.3	27.5	10.1	40.1	48.9	-8.8
調査書が変わり、「学力の3要素」すべての評価が記載される	22.2	25.5	20.0	17.7	12.9	47.7	37.7	10.0
総合型選抜(AO入試)、学校推薦型選抜(推薦入試)でも、学力評価が必須となる	24.6	23.7	18.9	17.3	14.4	48.4	36.2	12.2
大学が、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)等を策定・公表し、それに基づいた入学者選抜が実施される	25.3	23.7	17.5	12.2	20.0	49.0	29.7	19.3
高校と大学、専門学校が連携を深め、生徒の学びがより繋がっていく	42.0	25.4	12.3	6.4	12.6	67.4	18.7	48.7

※高校生「不安・計」の降順ソート ※「期待・計」と「不安・計」の差が5ポイント以上の数値を■で表示

図11 【高校生・保護者】〈高校の教育〉に関する教育改革への期待と不安 (全体/単一回答)

	期待・計		不安・計			期待・計	不安・計	期待・計-不安・計の差
	期待できる	不安はあるが期待が大きい	期待はあるが不安が大きい	不安である	わからない			
ICT技術を活用し、一人ひとりが最適な学習内容と進度で学べるようになる	37.1	29.3	14.4	7.4	10.5	66.4	21.9	44.6
生徒が自らテーマを設定し、調べたり解決に向けて取り組む探究学習が重視される	28.4	30.1	18.7	9.9	11.7	58.5	28.6	29.9
先生が知識を教え込む授業から、生徒が主体的に考え、学び合う授業に変わる	27.5	29.2	20.2	8.8	13.2	56.7	28.9	27.8
学んだことや経験したことを振り返り、次の目標を立てる「ポートフォリオ」が導入される	26.6	26.7	16.3	8.2	20.9	53.3	24.5	28.9

※高校生「期待・計」の降順ソート ※「期待・計」と「不安・計」の差が5ポイント以上の数値を■で表示

教育改革への期待

高校生

- 学力に加え、その人自身の人間性が評価されること [島根県/男子/大学]
- より早く大学で学ぶことなどを知ることができれば、進路選択の参考になるのではないかと思う [東京都/男子/大学]
- 勉強を自分の進度に合わせてできる [新潟県/女子/その他]
- 教師から教えられるだけではなく自分たちで考えることで学力が伸びると思う [山形県/男子/大学]
- 生徒が積極的に人前で発言することで、自信がついて社会に出た時に生かせると思う [沖縄県/女子/専門学校]
- 高校生が社会に出た時に自分の軸を持って物事を見られるように、高校のうちから他人の意見を共有する機会を作ること [三重県/男子/大学]
- 学校での学習が生徒が中心となれば行われると、生徒一人一人の好奇心や向上心が上がると思う [島根県/女子/就職]

保護者

- 個々の能力をしっかり評価してもらえるところ [和歌山県/母親/大学]
- 学ぶ意欲を高めて欲しい [茨城県/母親/大学]
- 変化により子供の新たな力が発掘できる [北海道/母親/大学]
- 好きなこと、興味を掘り下げ、自分の生き方も含めて考え進学できる [三重県/母親/大学]
- 今のやらされてる感がなくなり、自ら進んで学ぶ環境になる [和歌山県/母親/子の希望なら何でも]
- 自分で考え行動出来る人材の育成 [山形県/父親/大学]
- 学力重視から個人の主体性重視に変わること、社会でも通用する [北海道/母親/就職]
- 生徒が主体的に考え、調べたり、解決に向けて取り組む授業によって必要な力が身につく [沖縄県/母親/大学]

※末尾カッコ内の表記は高校生 [都道府県/性別/希望進路]、保護者 [都道府県/続柄/希望進路]

社会で必要な能力の育成に保護者の期待が徐々に高まる
「主体的に学ぶ授業」「探究学習」

これから社会で働くにあたって必要な能力を定義する経済産業省の『社会人基礎力』を提示し、必要度と修得度をたずねたのが図12だ。

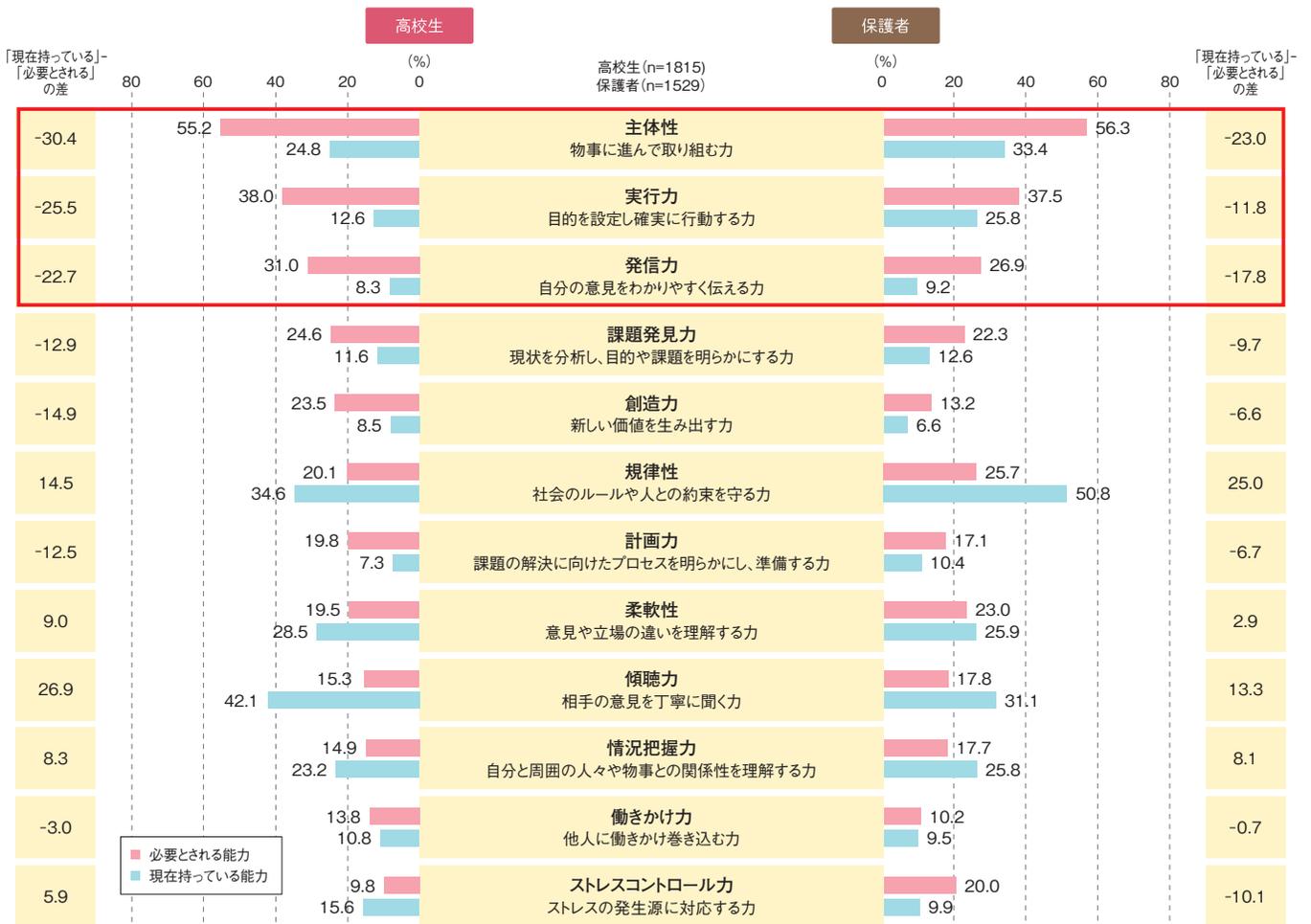
高校生、保護者共に、必要とされる能力の上位3つは「主体性」「実行力」「発信力」という結果となった。現在持っている能力とのギャップで見ても、これら3つは不足度合いが大きく、最も伸ばさなければいけない力となっている。必要とされる能力を身につけるために

「学校生活を中心とした活動全般のなかでどのような場が有効か」とたずねた結果が図13である。

高校生は前回同様1位「部・クラブ活動の時間」、2位「文化祭や体育祭などの学校行事」、3位「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」であった。

保護者も上位の傾向は前回と変わらないが、3位「教科の時間（生徒が中心となって主体的に学ぶ授業）」が2017年50%→2019年57%→今回59%と毎回上昇を続け、「文化祭や体育祭などの学校行事」を逆転した。また、5位「総合的な探究（学習）の時間」も

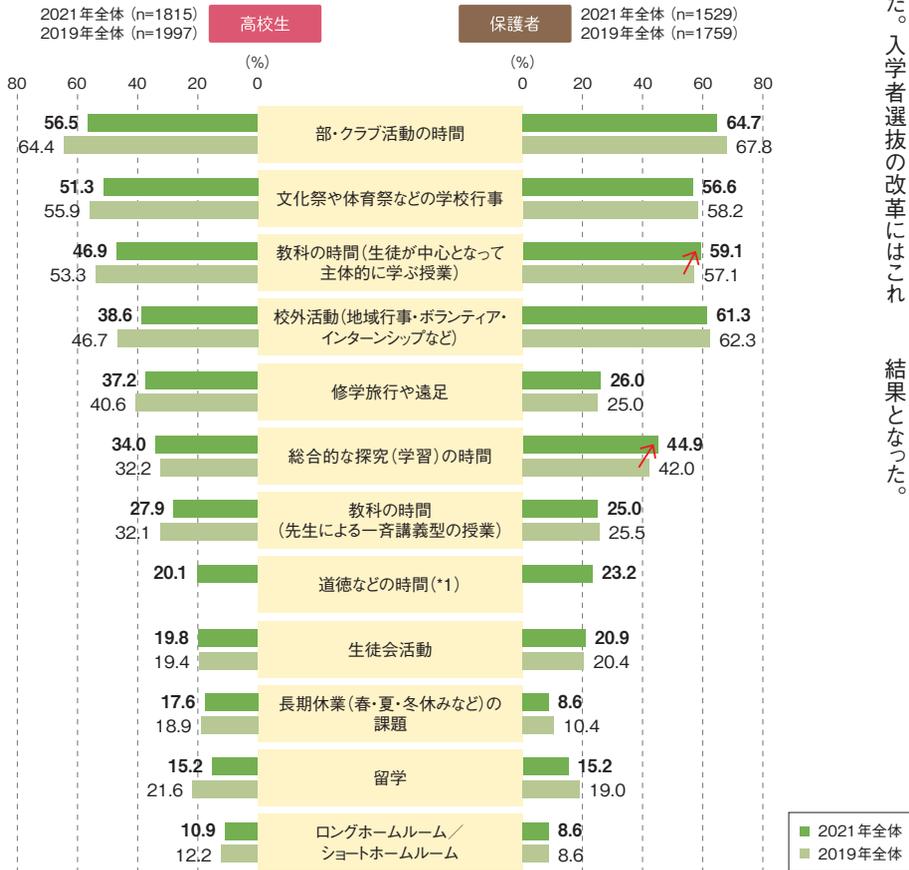
図12 【高校生・保護者】社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力（全体/3つまで回答）



※高校生「必要とされる能力」の降順ソート

図13

【高校生・保護者】学校生活において社会で必要とされる能力を身につけるために有効な場 (全体/複数回答)



*1=2019年は選択肢が異なるためデータは省略(「道德や宗教などの時間」として聴取)

後半のパートでは近年のICT活用を含む教育改革への受け止めについて見てきた。入学者選抜の改革にはこれ

2017年34%↓2019年42%↓今回45%と上昇傾向にある(図表では2017年数値は割愛)。

授業改善や本格化する探究学習などは、将来社会で必要とされる能力を身につけられるものとして、保護者の期待が着実に高まっているようだ。

までにない評価軸への変化に不安が残るものの、大きな方向性は受け入れられており、また高大連携の強化やICTの活用、高校教育改革へは高い期待が寄せられている。特に高校教育改革の柱である「主体的・対話的で深い学び」と「探究学習」は、2019年の調査でも期待の兆しが表れていたが、今回は保護者にその取組が伝わり、さらに期待が高まっていることがうかがえる結果となった。

まとめ

高校生が未来を信じて前向きな一歩を踏み出すために

今回の調査結果からは、①適度な距離感で良い関係を築いている親子像 ②子どもたちが「生きる力」を身につけ、不確実な未来に向けて自分軸でしっかり歩んでいけることを中長期的な視点で望む保護者 ③そのための能力育成に向けてICT活用や授業改善に取り組む高校教育への高校生・保護者双方の期待、が感じられる。

未曾有のコロナ禍下にもかかわらず前向きな力強さを感じさせるデータが多かったが、その象徴が図14だ。2021年の高校生は未来社会に対して8%が「とても好ましい」、50%が「まあまあ好ましい」を選び、「好ましい・計」は前回から17ポイント増え過去最高になった。

もちろん「好ましくない・計」も4割を占め、フリーコメントではコロナ禍や気候変動、政治不信、格差社会や高齢化社会による負担増などを憂う声も散見されたが、「好ましい」と思う高校生の声は、「平和」「平等」「自由」「便利」「個性」「多様性」「豊富な選択肢」「チャレンジ」などの言葉が印象的であった。制約の少ない平和な社会で、伸び伸びと自分軸で生きていけることを願う前向きな未来展望が感じられる。そんな高校生の希望に満ちた将来の実現のために「一人ひとりが自分らしく生きる力」を育成する高校教育の重要性はますます高まっている。

フリーコメント③

「好ましい」と思う理由 高校生

- いろんな個性が認められ始めているから[島根県/女子/専門学校]
- 将来の選択肢が豊富[沖縄県/女子/大学]
- なれるなれないではなく、チャンスが平等にあるから[東京都/男子/大学]
- 科学の力で世の中がもっと便利になるから[沖縄県/女子/大学]
- いろいろなことにチャレンジしやすい社会だと思う[島根県/女子/大学]

*末尾カッコ内の表記は[都道府県/性別/希望進路]

図14 【高校生】未来展望：これからの社会は好ましいか (全体/単一回答)

高校生	好ましい・計				好ましくない・計		無回答	好ましい・計 (%)	好ましくない・計 (%)
	とても好ましい社会だ	まあまあ好ましい社会だ	あまり好ましい社会ではない	非常に好まない社会だ	好ましい・計	好ましくない・計			
2021年全体 (n=1815)	7.8	50.1	32.9	5.6	3.6	57.9	38.5		
2019年全体 (n=1997)	6.3	45.1	38.8	5.7	4.2	51.4	44.4		
2017年全体 (n=1987)	4.5	47.0	39.0	5.8	3.7	51.5	44.8		
2015年全体 (n=1887)	4.2	43.9	38.2	6.1	7.6	48.1	44.3		
2013年全体 (n=2043)	3.6	38.3	48.5	6.3	3.4	41.9	54.8		